

第1学年A組 国語科学習指導案

授業者 小松田 ひかり
研究協力者 阿部 昇, 成田 雅樹
教材分析協力者 羽田 朝子

1 単元名 ちがいをくらべながら よもう 〜どうぶつの赤ちゃん〜

2 子どもと単元

(1) 子どもについて

これまで説明文の学習において、内容の読み取りと、説明の工夫の仕方の両面から文章を読んできている。「くちばし」では、問いと答えが3回繰り返されること、答えが一つに限定される問いであることを学んだ。「うみのかくれんぼ」では、問いが全ての答えにかかっていることを見いだした。「じどう車くらべ」では、問いの文が二つあり、答えの部分がそれに対応して書かれていることを学んだ。また、バス・トラック・クレーン車という答えの順序にも工夫があることに気付いた。

このようにして、説明の仕方の工夫にもふれながら学習を進めてきたが、次の単元に進むと、前の単元で学んだ説明の仕方の工夫を忘れてしまうことも多く、次の単元に進む毎に、前の単元で学習したことを思い出しながら、学習する必要がある場面が多く見られる。問いや答えの文が説明の仕方の工夫であると意識する姿が増える一方で、各段落内に書かかれている事柄やその順序が揃っていることへの意識はまだあまりない。これは、順序が揃っていることのよさを感じていないからだと考えられる。実感を伴いながら説明の工夫とその効果を理解することによって、学んだことを使おうとするようになり、各単元で学んだことを次の学びにつなげようとする姿を引き出したい。

(2) 単元について

教材文「どうぶつの赤ちゃん」は、対比を用いた説明的文章である。ライオンとしまうまの2つを取り上げ、赤ちゃんの様子や育ち方が分かりやすく述べられている。それぞれの対照的な姿を示すことで、ライオンの赤ちゃんは弱く、しまうまの赤ちゃんは強い（自立するのが早い）という意外さを引き立てている。こうした特性から、それぞれの赤ちゃんの姿に驚きを感じながら、対応する段落を関連付けて違いを読むことに適した文章である。

また、説明の仕方にも意識を向けることで、その説明の工夫も学ぶことができる。両者を対比させた説明の工夫のうち、本単元で扱うのは、対照的な特性を述べていること、書いている事柄が同じであること、述べている事柄の順序が揃っているということである。

本教材のこうした特徴を生かし、本単元では、書かれている事柄の違いを比較することで、より具体的に言葉の意味を理解できる、筆者の書き方の工夫やよい点を考えながら読むという資質・能力を高めることを目指す。

(3) 指導について

本単元で育む資質・能力を高めるために、対応する叙述に着目し、二つの対象の違いを読み取る、書かれている事柄とその順序とを関係付けながら対比的説明の工夫を考えるという「見方・考え方」を単元を通して働かせる。

導入では、気付いたことや不思議に思ったことを出し合い、単元を通してどのようなことを明らかにしていくか話し合い、それを基にして大まかな学習計画を立てる。

第4・5時には、問いに対する答えを探しながら、ライオンとしまうまの赤ちゃんについて、内容を正しく読み取れるようにしたい。大きさを表す言葉を実物大で捉え直したり、成長にかかる時間を捉えやすい時間軸に置き換えたりして、言葉の意味を確かめながら成長の様子を読み取っていく。

第6・7時には、説明の仕方の工夫を見付ける。対照的なことが書いてあるところ等、説明の工夫に当たる部分を本文の叙述から選ぶ活動を設定する。そして、互いが選んだ部分を基に仲間と「対話」し、工夫と言えるかどうか検討していく。

見た目や成長の仕方等、ライオンの赤ちゃんとしまうまの赤ちゃんの双方で同じ事柄について対応するように書いてあることに気付くことができるように、「揃っている」という意味の発言を取り上げて、何が揃っているのかについてさらに「対話」をしながら明らかにしていく。

説明の工夫の効果を考える段階では、「もしも、その工夫がなかったら」という考え方で、工夫されていない場合と比較する時間を設ける。具体的な比較対象を提示することによって、説明の工夫であるかどうかを省察し、どのような効果があるのか子ども自身の言葉で表現しながら考えることができるようにしたい。

3 単元の目標〈記号は本校の資質・能力表による〉

(1) 時を表す言葉に着目し、時の経過に伴って変化していくものの様子について順序を捉えながら読む。 (C-21・22)

(2) 対応した語や文に着目し、二つの事例を比べ、違いを読み取ることができる。

(C-16)

(3) 対比的な説明の工夫に興味をもち、その工夫を用いるよさについて考えようとしている。

(エ・C-16・33)

4 単元の構想（総時数 8 時間）※選択・決定を通して、自律的に学習を進めるための支援

くらべて よもう～じどう車くらべ～

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の主な支援	評価 (本校の資質・能力との関連)
1	(1) 教材文を読み、初発の感想を交流する。 ・ライオンの赤ちゃんが弱々しいと分かった。 ・しまうまの赤ちゃんは、立ったり走ったりするのが早くてすごいな。	・動物がたくさんいるのに、二つしか選ばれていないことに気付くことができるように、題名を読み、どのような動物が出てくるか予想する。	・教材文を読んで、初発の感想をもっている。(エ)
2	(2) 教材文をどのようなまとまりに分けられるか考え、大体的内容をつかむ。	・「問い/答え」、「問い/答え 1/答え 2」等と、様々なまとまりで捉えられるように、既習の説明文と比べながら分け方を考える場を設ける。	・問いや答え、内容に着目して教材文をまとまりに分けることができている。 (C-22)
3	(3) 学習課題を話し合い、学習計画を立てる。 ・ライオンの赤ちゃんが弱々しいのはどうしてかな。 ・どうして答えが二つなのかな。 学習課題 「どうぶつの赤ちゃん」には、どんな説明がじょうずなところがあるのかな。	・大まかな見通しをもって学習を進めることができるように、教材文を読んでもった疑問を出し合い、疑問を解決するためにどのような流れで学習を進めるか決める活動を設ける。	・教材文に書いてあることを基にして、問いをもつことができている。(C-22)
4・5	(4) ライオンの赤ちゃんとしまうまの赤ちゃんについて読み取る。	・ライオンやしまうまの一般的なイメージを踏まえた上で、赤ちゃんがもつ意外性に気付くことができるように、それぞれのイメージや知っていることを出し合う時間を設ける。	・ライオンとしまうまの赤ちゃんについて、生ま様子が違っていき、その順序を読み取っている。 (C-16・21・22)
6・7 本時	(5) ライオンの赤ちゃんとしまうまの赤ちゃんの部分を読み、説明の工夫とその工夫を用いるよさについて考える。 ・正反対のことが書いてある。 ・同じことで比べている。 ・順番を揃えて書いている。	・ライオンとしまうまという対照的なものを比べていることよって違いがよくわかることを実感できるように、似通った動物を比べた場合と比較する場を設ける。 ・順序が揃っていることよさを確かめることができるように、教材文の順序をばらばらにして提示し、違いがよく分かるのはどちらの書き方だと思いか問いかける。	・対照的なものを比べていることよさを考えている。 (C-16・33) ・対比的な説明の工夫について、同じ事柄を対応させていることよ関連させながらまとめている。 (C-33)
8	(6) 本単元の学びを振り返る。 ・違いを比べる説明の工夫が分かったので、これからも使いたい。	・学んだ説明の仕方の工夫を今後の学習につなげることができるように、今回の説明文の学習で分かったことよ、できるようにになったことよ振り返りの視点として提示する。	・学習して分かった対比的説明の工夫や、これから説明文を読むときに使いたい方法を選んでいる。 (C-33)

◎本単元で育む主な資質・能力
書かれている事柄の違いを比較することで、より具体的に言葉の意味を理解できる。(C-16)
筆者の書き方の工夫やよい点を考えながら読む。(C-33)

○本単元の学習活動で働かせる主な「見方・考え方」
対応する叙述に着目し、二つの対象の違いを読み取る。
書かれている事柄とその順序とを関係付けながら対比的説明の工夫を考える。

じゅんじょに気をつけて読もう～たんぼのちえ～

5 本時の実際 (7 / 8)

(1) ねらい ライオンとしまの赤ちゃんについて対応する叙述の順序に着目し、違いがよく分かる理由を話し合うことを通して対比的な説明の工夫について考える。
(C-33)

(2) 展開

○省察を通して、自律的に学習を進めるための支援

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の支援 評価
3分	<p>① 本時の学習問題を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正反対の動物を選んで比べていることが工夫だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習をイメージできるように、既習の書き方の工夫に加えて、新たな工夫を見付けることを確かめる。
<p>学習問題</p> <p>ますいさんの、せつめいがじょうずなところは どこかな。</p> <p>※「ますいさん」は「どうぶつの赤ちゃん」の筆者</p>		
37分	<p>② 違いがよく分かる理由を話し合う。</p> <p>両方に書いてある事柄</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きさ ・目や耳 ・お母さんに似ているか ・歩けるか ・お乳を飲んでる期間 ・自分で食べる <p>順序について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「くちばし」では、書いてあることの順序が同じで分かりやすかった。「どうぶつの赤ちゃん」も順序が揃っているね。 ・順序が揃っているから、比べやすい。 ・もしも順序がばらばらだったら、比べにくい。 ・どこに同じこと(事柄)が書いてあるのか、探すのが大変。 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明の工夫は何かという目で本文を読み、一人一人が自分の考えをもって話し合いに参加できるように、説明の工夫だと思うところを見つける活動を設定する。 ・ライオンの赤ちゃんとしまの赤ちゃんの両方に書いてある同じ事柄の対応関係に目を向けられるように、「同じことを比べている」という考えが出た時点で、事柄毎に線で囲み、色分けする活動を取り入れる。 ・書いてある順序が揃っていることに子ども自身が気付くように、「色の順番が揃っている」という発言を取り上げ、何が揃っているのか問い返す。 <p>○順序が揃っていることのよさを確かめることができるように、教材文の順序をばらばらにして提示し、違いがよく分かるのはどちらの書き方だと思うか問いかける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時に見付けた新しい工夫を意識化するために、見付けた工夫に名前を付ける活動を取り入れる。
5分	<p>③ 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・順序を揃えると、違いをすぐに見付けられることが分かった。 ・順序が揃っていると比べやすいと分かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学びを自分の中で整理することができるように、ペアで振り返りを確かめる時間を設ける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>対比的な説明の工夫について、対応する叙述の順序を揃えることによって、比べやすくなることにふれて、振り返りを話したり書いたりしている。 (C-33) (発言・ノート)</p> </div>